

# 7. データサイエンス・AI全学教育機構 シンポジウム2024 ～DS・AIを社会的側面から考える～

2024年3月8日(金)大岡山キャンパスのTaki Plazaにて、「データサイエンス・AI全学教育機構シンポジウム2024～DS・AIを社会的側面から考える～」をハイブリッド形式(Zoomウェビナー)で開催しました。シンポジウムは、設置記念で行われた昨年に続き2回目の開催で、本年は「社会のリーダーとなる人材とは」というテーマで行われ、学生、企業、他大学など多方面より参加者が集まりました。参加者数は、現地で136名、オンラインで79名に上りました。シンポジウムは小野功副機構長の司会のもと、益一哉学長の開会挨拶から始まりました。益学長は、本機構の設立経緯について語った上で、本シンポジウムの会場であるTaki Plazaが、学生交流を目的として設立された建物であることを強調しました。続いて、三宅美博機構長が共創型エキスパート人材の育成を目指すDS・AI全学教育プログラムの充実した内容について紹介し、2024年度からは「エキスパートレベルプラス」を新設することについて語りました。

ご来賓として、文部科学省高等教育局専門教育課企画官の森次郎氏をお迎えし、「数理・データサイエンス・AI教育の推進について」と題して、ご挨拶を頂きました。



開会挨拶(益一哉学長)



挨拶(三宅美博機構長)



来賓挨拶(森次郎氏)



司会(小野功副機構長)

講演1では、市川類特任教授が「AIガバナンスを巡る世界の動き」と題して講演を行い、生成AIの登場により、G7、米国、欧州など世界各国で急激に動くAIガバナンスの規制、制度について、論じました。講演2では、鈴木健二特任教授が「AIと社会についての教育実践」と題して講演し、生成AI時代におけるAI倫理、AI規制、その技術に焦点を当て、文理の枠を超えた広い視野を育むことを目的とした新規開設科目「先端データサイエンス・AI(発展)第三」について、解説しました。

続くパネルディスカッションは、「DS・AIの社会的側面を踏まえた今後の人材のあり方」をテーマに行われ、奥村圭司特任准教授がモデレーターを務めました。パネリストには、学生代表として、千葉のどかさん(博士後期課程2年)と麦島拓也さん(学士課程2年)が、産業界からは井川甲作氏(株式会社EARTHBRAIN)、小山暢之氏(第一三共株式会社)が、本機構からは市川類特任教授と鈴木健二特任教授が登場しました。参加者(Zoomウェビナー)からの質問に答える場面もあり、それぞれの視点から熱心な議論が交わされました。

最後に、井村順一理事・副学長(教育担当)が閉会の挨拶を行い、シンポジウムは大盛況で幕を閉じました。



講演1(市川類特任教授)



講演2(鈴木健二特任教授)



パネルディスカッションの様子



講演会場



会場受付



閉会挨拶(井村順一理事・副学長)



シンポジウムチラシ